

5 年	単元名	平均	2 時間
単元の目標	1) 平均という言葉の概念を理解する。 2) 平均を計算する方法を理解する。 3) 日常のどのような場面で平均を使うのかを理解する。		
日本語の目標	新しい語彙: 「平均」「ならず」の言葉の意味を理解し、正しく使えるようにする。 「平均する」: 動詞としての使い方 「平均タイム」: 副詞としての使い方		
学習課題	「平均」の概念を理解し、正しく平均値を出すことができる。		
主な学習活動	1) 教師作成のオリジナル動画 (注 1) を見ることで、「平均」の学習に興味を持つ。 2) 「平均」の計算方法を理解し、正しく平均値が求められるようにする。 3) グループ活動では、日本語力の異なる子ども達がお互いに助け合い、平均値を求める計算に取り組む。		

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	1. 導入 2. 平均の計算方法を学ぶ 3. 教科書の確認 4. 平均値を求める実践を行う	めあて『『平均』の意味と求め方を知ろう』 1. 積み木により「ならず」という言葉の理解を深める。 先生による P.20 の積み木の移動の再現から視覚的に「ならず」の意味を理解する。 2. 実践的な平均の使い方を学ぶ。 ① ジュースの動画 (注 1) イ) を見る。 ② どのようにすれば全員の量が均等になるかを考える。 ③ 動画 ロ) を見る。 ④ ほかにどのような方法があるかを考える。 ⑤ 動画 ハ) を見る。 ⑥ 計算で求める方法を考える。 ⑦ 動画 ニ) を見る。 3. 教科書の確認をする ① 教科書 P22 を開き、のグレーの枠とまとめ音読し、まとめの平均を求める式をノートにとる。 4. 平均値を求める計算をする。 ① 閉眼片足立ち (注 2) の行い各自のタイムを測定・記録する。 ② ワークシートの記入方法を確認する。 ブレイクアウトルームで班に分かれてメンバーの平均値を計算によって求める。 ④ 代表者が各班の平均値を全体に発表する ⑤ 全国平均とも比較し、対象人数が増えても平均値が出せ、平均を使えばスケールの大きなものも比較できること知る。 ※これを教科書 P22 の練習問題 1・2 の代用とする。	1. 児童に「どのように積み木を動かせば「ならず」ことができるか」を問い、解答を再現する。 ② 積み木で学んだ「多いところから少ないところへ」ヘリードしたい。 ②、④、⑥ 児童に発言を求める。 ① 1 分間でノートにまとめる ① 測定は最長 60 秒とする。 ② スクリーンシェアで行う。 ③ ワークシートを利用する。 ④ 班の人数が異なる場合でも平均を使えば比べることができることを確認する。 ※ 班分けは 3 人と 5 人など、合計タイムだけでは比較ができないようにする。(平均値を出すことが必要であることを確認する)
	家庭学習課題		
2	前時の復習 教科書の問題を解く まとめ 家庭学習課題	1. 「ならず」の言葉の意味と平均値を求める計算式を確認する。 2. 平均値から全体の量を計算する方法を学ぶ。 ① P.23 問題 2 各自で解く ② まとめをノートにとる。 3. 応用問題に取り組む。 ① ブレイクアウトルームで班ごとに P.23 問題 3・4 の文章題の解き方を考える。 ② 代表者がグループの答えを発表する。 4. 平均値を求めるときは 0 も含めること、平均値は小数の可能性もあることを理解する。 ① P.24 の問題を解く。 ② クラスで答え合わせをする ③ グレーの枠の文章を全員で音読する。 5. 教科書 P.27 のまとめの問題を解く。 6. P.22、24 の大切な文章を全員で音読し、授業を終える。	2. 一時間目の授業で学んだ平均値の求め方を基に、全体量を予想する方法を学ぶ。 ※ 解き終わった児童は Zoom の「手を挙げる」機能を使い、教員に解き終わったことを知らせる。 5. 時間がなければ宿題とする。
	家庭学習課題	P.25 を読む。 P.26: 自分の歩幅を求めて、自分の部屋から台所までのおよそ	

		の距離を求める。 P.27 の残りの教科書の問題を解く。 グーグルフォームのふりかえりに記入する。	
--	--	---	--

注釈 1：ジュースの動画について

- イ) 5 人(校長先生など児童が知っている人物)へ各 1 つのオレンジを絞りジュースを用意するが量が均一ではない。
- ロ) 均一化する方法として積み木のように「多いほうから少ない方へ」注ぐがうまくいかない。
- ハ) 1 つの容器にすべてのジュースを注ぎ、総量を 5 で割ることで均等化できるが時間がかかりすぎる。
- ニ) 各ジュースの量を足し、5 で割ることで 1 杯あたりの量がわかり、均等化できることを確認する。

注釈 2：閉眼片足立ちについて

平衡性（バランス力）のテストで、目を閉じて片足で立ち、何秒間その状態を保つことができるかを測定する。軸足が動く（飛ぶ）、上げている足が地面や軸足に触れる、体の一部がどこかに接触する、目を開くとその時点で測定終了となる。

最大 3 分間の測定となるがここでは最大 1 分間とし、計測は秒単位で行う。

タイムの測定はタイマーを画面に表示させ、児童は測定終了のタイミングで各自のタイムを確認しワークシートに記録する。